人のをかきずわられるあるべるがない て佐と求ひ勢」と中下つ三品のりと考し 養法刻老第七 病以好物外的事以 からは三かといると 偏以到了病似をいるな小教育」上京を いして十金のゆわりまして、世代愛かても 多一之末、確容を歩乃良書の親偏かりるとい かのカな一名は裏の投してんどわやする 心島相よつける事を人の言のごしていること

見てくなわりまるようとれて数はたわらばかり 多いなるい庸いのあいかしてきところい くといぞうな中ののちつり下るのあるまで といはんてみられまと絶るずくているいん ぎててるくいる病多し死症、まと見してもい とのつうからとかいしかけられば数まれてう たうずは経者とくはるれるのでしてねい 京」するせてみられるがあいて多くくととこ るれ下軽い福し脚しまいありまれずと福むの と祥しまれででまるのろれしくまちでけ かあしくとの一番を外のうかっとうすっだを歌 から人とたらすらにそうないとると動けて 書」な風の日有高不能者的中醫云言公物 まいちったしまるしませていまとうでを度 ち小月のうでまるるなられては歌しな いのまなく中国の上雪は吸くすくいでもちょ 暑いりたく味りまける事と考しるとい たくをからつきのがっと人」害わり又は 必ふうしのとうるしるといまましす くとなるいる。乳の織りしてある見もでうごろ

教思趣日人故かんでまと願べるは微しめたべ 劉神をかぬまるなわのてりしのいろうべきと あるのからでしてまとおくまいる偏毒のな というからいかりを人のとなりしという そるはのあるとびふとおしくなどである かろろう 都到了学りてあせい のすがはるのいゆうがきのうかまつべしるとも うりしてからなしれるものあるがまい 日病傷打可養萬機最雅醫婦人家方 事があららいのくてろのてかととうかられる くるとあるまかっれた人をあるとうといれてうると 第五つではてきをとしてかられいさくなる いらんまがまているのなめとるとかのないとうしてあるとうまいなとうしてもにありかられること があっとくくいくとまいかとっちとう地方をし で方する言とはんとあけえてはしちるの うろかかららして属を持くることはすって がんんかるごうとはなずくい中おりをありとる う一勢の自者できくどしてからるよ

押男、日子八八大教内を含らるようしまで を実の様よりそくそはりまするしてでよるのでありまいまいまいは後年変とてあるのを整 多のうう一切るのまんてはるちょうかぞうまれると ちはといろくろうてそりといかればとしちょういて 妻」をだしちがちょうでしたかの町ではほど てかどろの食をかり 敬しなんて教しをいかりつれてらるはと んしせいなっては正したがでうでなと過し するというとない言い教やしいう。痛をのまべ 私のぬかりを食れずとまってあるし てくされまり言うして金やとうろし あるかどろういとくなくるだろうなちろしまい ろうりまれるましまと不用してませではも けなる一切のあるみずりに美所服をごうに福の スともあるとれい胃の乳とけじからる るるというかわかれいする」をせられいるまとうる て病で生し合い物けてあくかいくんやな 桜とれわりくつしさまいある。もこれいちるえる

■となりのいか」あれる村の内の教徒がありかく 福の物なのはおといいえけどんべかりまるく 東外のまだしてれのづういいるを多しもとちょ 丘震技が海生の通巧りて去せのますといる でいまくけるりくるとうてれていると赤き し事が風の事つしいし でみずりにまと用てままわてられて福でする ま確いやし事がゆうるは風もい 意之用的でうばら 福石以降かてはまと な一般肉の脾胃でやっかようあしきま へ会補しるういしとうだくいおし会補とし をきの補」まとれるあるもくの言う高神 まちろろうともちのですのて福をしろいける意と 用や一弦をのましくるいまいかなの内 福をてたるとはいるとすねらて佐ら一をより こうではないであっくっていれているが 月のとべんしてしる子療はの名いるならの が称後しおくろがれり を生の通いのあていまれなっちかいのらとせく とうぎをあっまるといろしまれなうを変でなら

深味のましいをわり ちぬわりらの見いてきり ぶなーとりるとのまとのあるへりに過まる できてくの作らってなるとのをとうへん とためのべしもをとけつ通りるるなな後が だいみをの生をかずるりけんなをしれていて 記をでつしる動棒とはしせいせんなる大年 をかし信とうい内然と気の一かかせると るとせなりくだろうくとけのまって、風かかとと ろめてまましてるといくわりをないるか 福山宜しらなるととしませれるれで功か 常初ところのおく又素のあるよろがあるべしま のまとく風いしくまうりしんできるうしかく 通かりたのろをぬきしたがりつされて云と 八きあっての他生ま也相橋と機哉と 佐はしずけでれるしたとい食むとそちからよ 神程わってんで感うしてくてればらかしてく り対きよつらてゆのしありまるるおもと いるまな性のようでありい用いる製はとう くらべし 一人意代教はよる公用ので一書性を花像 熟歷是

裏様一勝大小のが発するの在はとなって 郷 いうある孙味らこれと教るはちういてあかればあ これでましてまれかかってより一年乳のう 内生多のたっといとならくしかけられてまかた つくし種場かつうちくなっていると またってだしててやくなわけると数でくる 降七清華子教乃剛例之利第七三利奉之 重しずが補美勢」をしててせたに 発補しでううと公利素なより 一人勢」 うかうちょうれからんのちく風をどの数しん のるでようかいてごるなかろべし近ち付け またようとうちと大きなというようずやろう 都了八日年の古地民俗の問題了国十七人家 のきろいかと一般とす響あるようて一まり るはよくんであるべし文とくかくうかっちゃ ち、良まらちょちろいたかしいなるで愛す 松~と今の世醫の茶都八般の手三天七 いくましつぞくちょうとなる して那乳こうちゃとしろしく奏して整

中るろ人目かれ人何しくえくかり大小な弱力 ようううばらめらぬとううよるぼりはないま て陽明して食らくちくみる大年の何とない いてる人もりったる成人の日日からないなると 多く肉で多くから人りなくかはつくるはあり でおきて日午の本小服かる事めいるろうう ってるな目かくこかじてしれてるするれるの人 きの妻をしてないるがとたなるをでうしのの妻をしてすると変して質をとして味る 本利をいるとおうる」一独ってりするよる るうむるからいむなりしてるかかかららぬらりは変 る素利の大小れぬくことのつみられてこれでるべる へ日かくりは質しる時間了る在然食 馨のま刻小旅からなこありころ中華の人 かりつないかっまりまるに続くけるの 変湯のあで用るまかくま一般とうないます。 京といことでするくて一般とす事的の中を大人 松了了日中八年出了小殿を了了仍至中日日中の 思はしてまかつくるとならまましと言 を着りか服了個会としる名一端を行る しってがいいかと大松し食をでうし

りかくいけるのくの極かて場里のつようになす 老又一次というなるようて見なけるちな小松 移て小きいろめてしらといちない後と見らしる て小後外用的菜を病し色であるとか後か きいくるる言かりあるとれいいなりてを見てる るせされでろりてある方がかろんまなちゃくん するなべてらんやかとまれとかかちょうろ おからきいまを弱のあるるでらけるの人の 一方で大根のですりからしろ大根のできる を福る適あせてんまで思くけなるで変えして 八中華の夢しないななままってあるうちくへ が区しつろべしたというりのやすりまりてかれ してまて小腿はとうがぼしくくととうがった大小 というと小後しすと云色ったく又日日な代替 な小服しちとちまるとなってるまたんなる というとおおのかなうべしを利品と見る かりととこのてを別めるまてうなりなっきち らしる多くななななれるて多く見らず多 つけ唇のまめとろうして物かけいわしてい種湯

摘ま一名のを量い一点「り」るからるといるのう 今いそうにもんてうか利まら一般のかるとしなる か後していまるかるく対あろべりが確立とい ろいかろうてまかたくざろあるれとや 為いか凡客肌層であり天鹅で生一内飲食 補まかってやらくろくの一路一人或一人一名の くのかしのちろうようと小様のまかってらたるこ 強弱ようでは被とし からりとことしなくしまるれれまかの大小 まってーちっきと早く数ないらして全ると ちべー今时の響の用りまするもんしないろと うのつうやは程とゆうして小松の家致から事と と一女りとくつくしていなるとのくてと死から 車前の欠べ数ようかし又小きでで放しうちうと 的船とまくくういられいれかとつうとう大きょうう どと人服とうましてがるとって死とした人と からる那ようちかとう事なくないるれるとかっ 自然外乳をはしてるあるかかのまかといく 陽胃は寒り枝ばのきこおはのありる

大人の利素を奏らりに必でてりるるい一意は水 小児のま一般なかりりてまるかろりも又見の 佛人のまい男子と子松上雪一打傷八松一人 五からまる所除ってるれきであり、後の大小 大かとてうらて婚滅らべ! というとす大松の十八人りち十五」もろしも スシュンスー 動戦、強大る人もら大服し きへてあどうとめてときってろうてまた でしてえくのない独弱すりて路機とべしくな ニシュンと一女八かよかり神にあいるうっと 補氣用。菜方的一个服一五三三分了五七分 とい一巻はえー一色とうなるようらし夜ま 書後らべーにならいしった変をべつが るいくろべし あつくいし日一をころ後だまとうですべし大き りて場とう福工いるでしたりて多くのとう 補業と変しろし、一多しろどろる事をのきる で除られてきさみ十人りろれるなるもと 一般の大小るゆてある場域とべし虚人のま

神美八孫塞一中七一年塞丁是客的 乳寒りへいかりとべし或者をありはある をういないとうて後のレベー 又在了了的附子的桂どか然外教教的公司之意思想是他性どかべいこ中降之我必要素了方文一神中意氣湯をあつるで用できる 利意をおとうちらのあるですってがかて 信或可乃後之人升麻業明で去て松養が つめてつをとしくするいろっきへてををしますし る二年ととしよりがあるとと、同って物前もこる 病人ようへしいとごろくい初夕をるい日は る中的り意味敢已柳葉了か附五公司 いってからくうちかかろうしててるるこ お後合ちて一巻すしつってかいっつろじゅかれ 大格からしいろろするなろうをと用かいしておよる か花かっているるでなかったと見るへりは分子 なのじ種目いうないつくて、松しつうくかり うる後しこでなる熟接と神場い一日1一老ろ 一张代子上包括七八个食行为公補湯の上

中華の原父母八妻八必三年包天下右今八通法 小児のましめでてうるべ一般の大かりもてもる 夏戦極小らで勝国小から人虚弱から人べまる 湯しくろうきすとすててかる妻しなくる へていいまりころなるものとうというり なと えくすべらいをし 或くすわとろ一意人 はきる美しける(引のへ) かりのけれかに 動場 一花的なりいあるた あるするころでみんなのかとかったいのももとき 戦の忘るからよりすて外考へてせると 东大张了写 はり記述り動の妻を宝の路人三百代書、二 十七月之朝の要い十二月かりも日かのる意 のきを除るてるできるとが場い一格よろっき ろう中なから、一切らしを他の傷るのはなく らび男を長大かて勝胃いつきくつとう 服でろしか服してしきれを一人りかかろう を切らるとかりとどう虚人のきなるとある カびからくろんるから、格しみなっ一分かるり ぬきとと病をようべしなくよいひをし

ぶま一根ハからの大小用られ多かできひろう 外補かくはるいまなからでしまってあくまったのうではいりはまいまるというではいりはまいまるといりを グ色ですしとべずと今時かあの人の意気をそ 予勢はしありいしてぬまの情情されるの 強しけぼうかいてごれなの差ったったれるは、 からになるくつくれかわっててりべしれくいる 小のもざかり 不者とくもよりのてある本を用ると歌回 好多多路人~ 人のとうまかり俗のしちょういて通れてきってい かよりすべてうり考えて中るのま刻のすど 夏をちうびたはよってこるの表がりから 多かろうしんはてどうがはなかてろうる なるかりてを内への強弱病の指手に分て 一次と言の「国ーろ」から一後八人り そへつよりの人ないるいれたり通し後見る 人多くへねして死せりましたくろうたんえど 九面で補い骨と大人葱白八風をとなる

今世勢あり他まれなのりまめと妻子り 意思の自然であるよれせて独かとべてがなく 蓋がしてちずしるべくうとしかけくまけ そくななるのですをかく後ろとちくい なりなるとれんのは飲へしていれてうるに からてちううつまけやて要傷のからろて過す かそうごれなとからしてえるとう時場でか ちかべうがまけるてわしいはまから いとてやって来省の他ようとう御場を てまでなまの硫を換場してわらかも湯 まかつくしたくで茶と帰場るほんち 利茶了以英使也有一部都食傷胸痛電池 らざるをおとらい一布のまなをいろく み何からいいなるくからいりとざっといえ知る ずのある変像りとけはのゆとうできり風 そいは極美なあるれりを法義例と何よろう て神場しい子子の世代し用る根葉よう しっなりそくなるうすべとうがし 寝のうすを 一概第八月のべっんのは流まけるくかて

□ あえるかでのかべる乳つく味とうとして 断出微端日大将散利之利 医生神養之列 補場へ奏湯歩と付かつのかつくととかつって 世代了な旅業とてまでなるで要傷にひけて すもちほうのではしてとは国よううかろくかん 宜熟入门日補湯須用熟利藥不一強生以 からいを用てるけーくるかとうべー まつまってととうととかれけてよりてきると 場とならろみはる食がとさいつ切の時時を ゆうやうか変とめてし一一切し多くならべううに神 はるの勢じろ変決かり補陽へ久しく奏して 要著とろうないお~こ布いわしままりてま ろわらうなうなるのなるに来し成まとねり けるこれはるとうとうのろうれまして他まる 左系傷」ごりまかばやらし神まいる代奏 なのかくましきとべし他まるなうべん 服ともく自治しまけかよわくべきろんちかと 着りてるさみあるられちらごかしまけどかして 妻一つといまの時とあるのしくろうかし

九九まべれなやくううかをめかづくしてもるどから 入りよろういまと後もろよれらかよりこの食は 建了致として一部されでが去でてる方は引まれなかって食火してよく妻と多くろとて に下がしまとう茶人勝胃の核疾とつうこ こかり称称電記館場殿扇山馬丁をなど下勝門独像しからう地美八妻場了りなる あるり一般場でなましりを切らるとかりとす 行為ようううしとみかある場間けるの るからいなそ一付するのじているにあける に至了公園道は後を福下部了的了了一个 浦まいれて多うて奏し、教後し、教でらる るてまわかろうられてもとご版中はでる つとてきなくろのてまわりもた人のほかり 京外見事言意制的了在醫与用于作 てかいずい衛をいまやりわしくしてゆるた を始むくるがよするうして害ののなる神 乳されで柳まりちろうゆう神る事一つんでか 人、補業と用るまるい野であるまで乗り白那 一数まい何ませるおまくれまいりとうこかり

まとれとうしれるに成しまとろころろとりも見 又日まできるとろにの確とりもべしやうとのかこ 中華はあるまあの母教ところちれてひろうころ えらくとうちゃしてきるいで進作からくした しる地のあかって場とももないあったいなど用けようかんとせでなどのも下部のあるいでより 少名物之在人名东上四十分佛殿福年 多くのいううびもまが飲めてるともんろう らしいとしといかつというかのじゃしまし 多水食後和上軍一世年一七萬七個から 数かし去後二人ろ一色了意三月本一枚奏 ちんれて変場でもも数まとで也心動から 15万八倉子名で日中に軍一名青龍工 ちろに多くいしてトにまるべしある政立は 成一方子りて私格一方小一名古生意大大家 一松一登了第一て降でもの香養都等人 てせかるいうるいのあるここれであいるし りりあいいまうかっとつうさて見かい

中多少変なちのかし朝経くるあねしかを中あの 宋の院初中了等後しるまる日近世の陽と見じ るか見よいま後と用も見の大かとえりのてかぬ そとろうス小児のま方由格一女ろうちゃりて ゆとくかしをれて変にとこれからしりからとくかりもはま到一根のかるでするとを見る なかしてうしいからいり 発言大全で表面場方 の変はの小松かしてあるでしるといる方のか 後日右望的麻至大為旅一ある三老生薑八 我殿毒我、我你一人如一多萬三月本一人 夏からきも一根とするしかせてうんあっきつ 七分了爱你的多个八楼像一餐多名八個眼 要吃~回 けられてる一個六分了多の電布の歌 せかいうなとま多種飲いる然にもろった 限で女ろ一色す蓋七片鳥格一節教一行 とうくいなどとしてりくをかり湯すいる 日ここなしいろうれたっなうしくをごし からべし、黄敬の中等後しるなはいからの素敵 て黄酸と見るしどりからでけるようはほと見る

写真八茶一次了一个老儿を教教の例或多奏 するとといれるのけるのすか一見いかいましかる たった最のみかして用しるべわりは言いる うか人れ東城とくうりををと考てからもじ どうけれてするなかしがからいしまけ 月年の八中華の人り務乳活動力で経輸 ういく願とゆくどれちれ一、美術功つらが 棒が日本条件後かりまくまもでういい、本 なそろもはるまるれでいるとうとうてつってや らく一八まかくちくからあかり して化まのめとすがとるでしまてるまに用 うれやているとない ようべし補湯しいはある了一黄数乃條也公 ましい二月とものししはとおうからうろうと よくらてるうかいはれるとましてまかつ 養敬と名つるしるやまけるくかぞくれとける へまで無本としてかのま食のひろことを見 あくれて後とうななカウュー美しご芸書の の神らうけまなとうるとうくまけからる はっかいかけるうろべーなまれなまとうない

るとくかっとういりいてきしてと一様しますらかる 今年の今後教養とし神かのは外多くなる するをおいるへし そうくしてをとかべているとののとってと とうものなの人よいいしゃとしかべくがかれる べうだけるの書これ場 からかるかりり まりわりくかけは食べのむなまれつったや だしつうんやらるをしいるべし打傷」なおでは かたかいりもべりが成日と真補湯いこかり 傷しいこかではりをしいでかが、~~となら生 事限に職の具なるのとかりそ食いる しから言味となってとは、客をい今世とはななりとして中からへ、陽明をう、東戦つとうな るからろしてのかののなるのとろくろくところれのなってののないとうないというないというないというないというないというないといいというないというないというないというないというないというないというないという えぬける人とおおしる見なの人はとる こいりしい他はするつ味とうくりでを りと言ううでを

三人ながとゆうあるがらしてしますなる 生薑と片ととう八生薑根八股多一七四一股と すかる勢しおくなったろと今を勝とかるい 九本が変とうるのでありぎ!一個くてゆるこ くろかくうするてきしてていまからく いとのぎり とべしたてよるべし成同生意 暑れるとも なてよらくうろれ大小にちらかて三片或にける を用の勢」はいるであるべしまえよめいい 小松り一年至と城一半とか用るまといるり よへへしくつついめのうりい ているといろうかるもなるのでしぬて美 から、一彩吸の子見つでもある吸ん 八井華ろと云萬八事とと一人家と震 ときかとるびして、多片とさいがると春日的 るかかちのはあてなくからもして日とる たかいうくといくうあとれてるまときなるときっ くるがせいろうちうかしな変してできる

またりあるみきかとととして後片しる 九京八郎していなくしく飲食とごうによって 九萬の後とか付らもりつ合きよりとからつ おいはひてくく勢しよのうろがんくうり 害とう必成けて しらいいとべろばれしまでまわめるかにはって のいずくかくうちの内よ個食といし又まとのんてね から一肉いりかかりもかまってもわれてくれる もようななけらうとう薬るわらかれからったと くいわい切りはぬのわけるの数せざるわるうく うっとなるてわりく見もつうが多くあいるうちまる あるれれると用むくろは成数とうて勢り ちくまれる市屋ようか来勢あってうかけいしてからへしょうしいとうというないとういっているとも けっている相名かく奥りくは愛したろ からい経りして肉からとてわしまからくち 勢しらざるはより同いなしくかりくろとう かいましる内とろべしまるいるというではいちん あるうちいしゅううろくるの数かりする

ま一後の大小を重いるをよっての大小を弱し 神美の変しろいろうとうをのたれけるななのた まで変とろいなとう 政あしだってつかつでくろうちからしるけっく なしをまかったとろうり やってあくうと次からうんちはしてくて見 ゆると外見のれるまかと移と利素と多くろうい 教は下路通の村場の分引すてつきにな たく数とうろしまくりいるとぼりきるる なくはいとくしてまかちつかりませるかず て多のろまかかうりいくれくたぬかとけられ ゆとろうろ薬み造んるとうりなりろびまからのするころでいろうしかしかしでうびしまさ いしてもかいんとであとうくなまわらうか まとのじはいめが多くのいうういのするるいと いかろろろかかいなりたんとういあどうでき 見とうくもはんしつくるあろうべろいく 早く致でうべ 一個黑也又砂罐一么烟之

食物の毒で切り毒しわらったろうときはませる 去いいろてまと見らに必然場と用づくな地に 利素が入一く変しはてい間事数数とうとす 阿公を帰しかつよいまの多してほわかんとうな 内が人でて早くかついわ してほうとやとろうかし 多一きょかくる付きるいのひ~一個要ない と用きるななしいろで見らべしてれまなな 毒とけらまかくいなりと多く飲べし多くはなど そのひだりがならく竹のまでかってもりる うかのかつ一大一つからてはどれいずなはるい むかんかりまっとんいあろうりい 大きんではくしてつるは低て多くで味わし 少してしたた人あるはからなかりむし るぎれまいると個点としもしい個なる 黄色有できるつめしいはいののかりとうの経と うが後してあとせいしたくいまがましてもある 茶链 とろい何うすくして何もとくかしがかる 世代了教職と云烟雪了て桐乳色

九まとはのあるい知かでやろうかるくれーやと 东垣日知来八茶八姓後よかく了八只君中我 中女の称を日かれれる国しまとならろうかてつ 問いないえらうなをらかれてうけてからいない あったどうんれているといるとうな物してなどる病がととうというよいなてかれているとうすられなり、後でもろういれていれていてもとりすられない人をと用も中生を まべんむかでとうよしも興生機論のえる そううしははのまなれれて使うべしたちの もれるくれして中下はると 施了用る中本地力程機養しろそくうり いろうるある風の数いもうるるあるれるもれいかってうるう をとかまでであるとかり借のをいとのる枝 せつかいけれるととはいるといろというでいているのななをまっているのななをきりくなるとを見べてがないのでをならなるとを見べてがないのでをなら方の使子 服のか量とえめを品のが発さされりを強い は今で得らべい枝色でですりて本派と いる小的と知具情代神なんとては間まると

花者れ 鼻を野事を味でとるろうとしは書き 風をとうに考えたべー湖婆の変でなけれる きくなっと不をはの一地かりるるにいろう なる者といろとせなるとうつまくうの書る一回 たらるのりをもう食者はりおきでう 和常し会見なるとななからまのもはるる時秋 ておれたらて思生とういを記ったとけていとけるとけるというまれるうれるよをいいとまれておいまと あいてうけ合きべーますりたき生うとりま 智いよううけるとうかりなかかいのかるとを大 とうける気をたらけれるとくいの臭をけし あとてらる又変をつけるいろうでを たっると 画茶るとるもの事く 多人念者となりてもするお透順者者養 かかからちできるうう 養のとうまと奏て食らればすくせら かってたけい書具小便のある私がてらるとれけると かしらめの食したろしてが変とうくいぬりまうな たるからを変けとうかとかんてわかいしたと臭 般者とうたのあると歌神かし云むのえるつうる

上中部乃在まいまくは化しるとよりといあるかれ 大変 はしやとうなるわしかからういし老人の のかくらと七八十るもとてもてりのなる ~~不多とのりまかしてつなのかくうをとに帰し とうもまく消化とうなく今到了一はわり用も かくつかし食を小腸胃うかいては洗せん アか大かしはよりからいけれるころかいよう ろうり的化しからしと中和的的なるよは る也大便帰了るちい彼ら~一麻にちに初麻 いかしかっその呼用つるなはなら或版稿 卷生到卷筝七条 役通してくくして作るなきろとつかゆう大使つる 不食一乳寒る病とろ人世るろしき多くべた 秘信とういまれるでやむより独生を秘珠とる は何一个如子妻とうれまればは何つかは は一起つ、むとうしかもつりるているのう いうくいてもとばますく 日まからべしも一たん